

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 京都市立 梅津小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 615-0931
京都市右京区梅津開キ町16

E-mail : umedukita-s@edu.city.kyoto.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 196 名 女子 187 名 合計 383 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

《梅津北小学校の取組》

1. 有栖川（ありすの小径散策・川遊び・有栖川清掃）

学校の脇に流れる有栖川沿いの自然環境に目を向け、地域の自然に親しみ、川周辺の自然観察・川に入っの生き物観察・川遊び・清掃活動等を通して、地域の自然を大切に守る心を育てる取組を行っている。

- ・ 有栖の小道の四季を観察（1年生活科）
有栖川の周りを歩き、四季を通して、桜・アジサイ・水鳥・紅葉・どんぐり・昆虫など自然に目を向け、「見つけたよカード」に記録した。
- ・ 有栖川での川遊び（1・2年合同生活科）
「有栖川を考える会」の方（有栖川のカップさん）に川の危険や楽しみ方などについてお話をさせていただいたり、投網の実演や川の生き物探しを一緒にさせていただいたりして、川について学んだ。
- ・ 学校周辺の自然観察（3年理科）
学校脇を流れる有栖川沿いおよび周辺の畑などで、植物・動物の観察を行った。四季によって風景が違うことを学んでいる。
- ・ 有栖川について考える（4年総合）
4年生は、総合の学習で有栖川の散策に出かけ、「有栖川を考える会」の取組について興味を持ち、その取組や意図、思いや願いについて話を聞いた。
- ・ 清掃活動（高学年）
年間2回。6月に少年補導の取組で地域の方々と協力して、川の清掃を行った。
夏休み明けの校内清掃で、高学年は保護者の方々と一緒に川の清掃を行った。
- ・ 笹舟流し・ビー玉拾い（少年補導）
夏休みのイベント。体育館で、地域の方に笹舟の作り方を教えてもらい、作って川に流す取組が行われた。その後、川の中からビー玉を探す「宝さがし」を行い、川に親しんだ。

2. 緑の広場

運動場の東に位置するみどりの広場は、芝生が広がる自然いっぱいの広場である。生き物や植物がたくさん見られ、自然とのふれあいの場となっている。休み時間になると、たくさん子どもたちが走り回って遊ぶ姿が見られる。木陰に基地を作るなど、自分たちで工夫した遊びをする子どもたちもいる。

1・2年生では、生活科の学習で、バッタやチョウを捕まえたり植物を観察したりしている。3年生も理科の学習で、季節によってどのような生き物や植物が見られるか観察をした。オオバコ相撲をするなど、楽しく活動する姿が見られた。みかんの木があるため、アゲハチョウを育てた時にはえさとなる葉を取りに行くこともある。

また、2年生は例年みどりの広場にある花壇でさつまいもを育てており、地域の方と一緒に、自分たちが育てたさつまいもで焼き芋パーティーをしている。

3年生もみどりの広場で、地域の方に火のおこし方を学びながら七輪を使っ

てお餅焼きパーティーをしており、地域の方との交流の場としても使われている。

さらに、みどりの広場には「かまど」が設置されており、みさきの家での調理に向けて練習をするなど、「かまど」を利用した取組も行われてきた。

3. ビオトープ

1年生・2年生はビオトープで生き物見つけをしました。カエル・カメ・小魚・ヤゴ・バッタ・チョウなど、休み時間もビオトープの生き物と元気に触れ合っている。

4. 職員室前，理科室前，各教室の水槽

ビオトープ，有栖川での投網体験などで取れた水の生き物や，校内の自然の中で取れた昆虫を観察している。

理科室前の大きな水槽では，夏休みから，オイカワやカワムツ，フナ，メダカといった有栖川に生息する川魚が泳いでいるまた，低学年では，カエルやオタマジャクシ，バッタなど季節ごとに見られる小動物を嬉しそうに観察する様子が見られる。育成学級では，カブトムシを幼虫から育てたり，有栖川で採ったコオロギの鳴き声を教室で聞いたり，プールで採ったヤゴをトンボにかえしたりしている。児童は，日々の生き物の成長に歓声を上げ，積極的に観察している。

5. たてわり遠足（環境オリエンテーリング）

6月5日，たてわり遠足で嵐山東公園へ行った。1年生から6年生の児童がたてわりグループでオリエンテーリングを行った。各ポイントには，葉っぱで絵を作成したり，決められた重さになるように葉っぱや石を集めたり，的をねらって高いところから葉っぱや鳥の羽を落としたり，自然とふれ合う活動を多く行った。また，自然にまつわるクイズも用意し，児童が自然に目を向けたり，考えたり，触れ合ったりした。6年生の児童がリーダーシップをとり，みんなで協力しながら遠足を楽しみ，自然に親しむことができた。

6. みどりのカーテン

既にあるネットには，ゴーヤやフウセンカズラを育てた。花壇から屋上まである新しく張ったネットは，オーシャンブルーを植えて長い緑のカーテンを作った。緑のカーテンのおかげで心も安らぎ，体感温度も低く感じることもできた。

7. 雨水タンクの利用

雨水を使って，学年で育てている作物に水をやったり，草抜きをしたりして作物を収穫した。

8. 生ごみ処理装置（たい肥化装置）

学校給食で出る調理くずや食べ残しからたい肥をつくり，校内の花壇や学校農園に活用するモデル事業（京都市環境政策局企画課が計画・実施）市立小5校のうちの1校に選ばれ，たい肥化装置の運転をしている。

学校では，生ごみともみ殻・微生物が混ざり，たい肥の素ができる。（第1次たい肥）それらは他の工場でたい肥に変わって学校に帰ってくる。（熟成）

児童は少しでも食べ残しを減らそうとがんばっているが、それでも毎日出る残菜は、給食委員会の当番の手により計量され、たい肥化装置の中に入れられる。

2月には、5、6年生対象に家庭から生ごみを持ち寄ってリサイクルする取組が行われ、ほぼ全員が参加した。また、同様の取組を行った学校の中で、一番量が多かったことは、意識の高さを感じる。

堆肥の使われ方は、各学年や栽培委員会で活用計画が練られ、目に見える環境教育に取り組んでいる。

9. 各学年の取り組み」・出前授業

各学年では、それぞれ生活科や総合的な学習の中で『環境』に関するテーマに取り組んできた。また教科の学習の中では、「環境スタンダード」をもとに発展的に取り組みを進めてきた。また「環境教育」の一環として、企業の方々に来てもらい、出前授業をしてもらった。京セラ、大阪ガス、ロームなど。

クイズ形式の学習や体験学習を通して、自分たちの身の回りの環境問題を考えることができた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（)